



マグニフィセント7という挑戦

令和6年11月17日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

これらは、明らかに、未来における全ての企業への新しい基準であり、現実である。そのため今日それら現実を自己に行うことが未来という現実への参加を可能とするものである。

これらは知的進歩性における新しい現実の創造であり、それに伴う新しい企業環境と経営への転換である。

これらは、新しい企業基準における経営への転換を要求するものである。それらは新しいこれら現実への理解を基盤に、社員の共有意識と理解を拡大し新たな経営体制への転換と新しい企業環境の巢出を実現できるものである。

これらはより優れた企業システムの構築と社員の意欲と行動における新たな企業への転換を行い、それら新たな企業製品とサービスにおける市場への参加を再度実現するものである。

キーワードは知性進歩性における未来への参加という現実なのである。そのため討議と学習機会を企業に求め、新たな時代基準における企業構築をクリアし、時代への参加を行うとき、合格が与えられるのである。

これが企業の偉大な挑戦なのである。

まず社員がこれら現実を理解し、社内におけるコンセンサスの形成を求める。そして改革チームにおける企業転換を明確に実現しなくてはいけないのである。

理解すべきはより優れた経営理解と経営システム、企業運営システム、新しい次世代技術とシステムにおける企業製品とサービスの構築を早急に要求されるのである。

これらにおいて理解されるのは既存基準では不可能であり、新たな企業基準における企業転換がこれらを可能とするものである。

これらは経営者における判断と決定理解を行い、これら現実の達成を得るのである。